



令和3年3月1日

桐生工業高校 定時制通信

HPにも掲載

◆ 課題研究発表会 1月28日(木) ◆

4年生が、卒業に向けて課題研究の発表を行いました。パワーポイントを使用した発表で、大変わかりやすいと感じました。コロナ禍で、3年生のみの観覧になりましたが、来年のイメージが整ったと思います。

めがね装着型マウスシールドの制作（橋本拓海）

ガラス細工（齋藤 光）

ガラス細工（岡田光平）

ブランコ制作（石田竜也、河内 楓、小杉永吉、中村侑椰、本多俊太、森田彩斗）



◆ 予餞会 2月10日(水) ◆



在校生と生徒会が中心となり、4年生の前途を祝福して、心ばかりの送別会を行いました。各学年ごとの出し物や生徒会の企画は、コロナ禍で行えませんでした。スライドショーを見て感慨もひとしおでした。4年生代表の森田君の挨拶は、充実した高校生活の表れであったと思います。前途洋々たる皆さんの門出を学校全体で祝福し、貴重な時間を過ごすことができました。



◆ 褒賞授与式 2月26日(金) ◆

- ・ 学科賞 「森田彩斗」
- ・ 産業教育振興会中央会長賞 「森田彩斗」
- ・ 全国高等学校定通制教育振興会会長賞 修学優秀者 「齋藤 光」
- ・ 群馬県高等学校定通制教育振興会会長賞 「本多俊太」
- ・ 桐生地区高等学校定通制教育振興会会長賞 「岡田光平」
- ・ 関東甲信越地区機械工業教育研究会会長賞 「小杉永吉」
- ・ 1力年精勤賞 「岡田光平」「齋藤 光」
- ・ 群馬県産業教育振興会会長賞 「齋藤 光」

◆ 卒業式 3月1日(月) ◆ ～森田君の答辞から～

本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な卒業式を開いていただき、一同深く感謝しております。先ほどは校長先生を始め、来ひんの方々、並びに在校生代表の方から、心温まるお言葉をいただき、誠にありがとうございます。

私たちは平成29年4月、桐生工業高等学校定時制に入学しました。

私が本校の定時制に入学しようと思った理由は、中学2年生の11月頃に過眠症になってしまったからです。一日18時間寝てしまうことがほぼ毎日続き、それだけ寝てしまえば朝も起きられないので中学校に登校できませんでした。そのことが原因で不登校になってしまった私は、周りの目を気にして家に引きこもるようになってしまったのです。そのような日々が続き、気づけば進路を決定する時期になっていました。精神的にも余裕がなかった私は、進路のことなど考えていませんでした。ただ、友達や家族は、私那不登校になっても見放したりせず私に向き合ってくれました。その支えがあったおかげで前向きに進路を考えようと思えるようになりました。

兄が桐工の全日制に在学していましたので、私も桐工全日制に通いたいと思ったのですが、いくことができませんでした。私は悩みました。担任の先生や両親に相談したところ、桐工に定時制があることを知りました。そこで私は定時制にチャレンジしようと思い受験を決意しました。

無事受験に合格し、桐工定時制に入学できました。最初はどのような人たちが集まるのか、高校で友達ができるのか、不登校だった私に四年間続くのかという不安がありました。ですが、定時制は夜に学校があるので過眠症で朝起きられない私にとって通いやすい時間帯であったことと、多くの友達に恵まれたことで、不安は次第になくなっていきました。

定時制の生徒のほとんどは、いろいろな理由で昼間は仕事、夜は学校という生活をしていると思います。私は生活のリズムを直すため仕事を始めました。時には疲れて学校を休みたいと思ったときもありました。ですがクラスの友達も働いた後に学校に来ているので、私だけじゃないんだと考えると、休むことなく通うことができました。クラスの友達が私の心の支えになりました。そしてお金を稼ぐ大変さや、職場の人との人間関係の大切さを仕事を通じて学ぶことができ、自分に自信がつけました。

私はもっと学校生活を充実させたいと思い生徒会に立候補しました。生徒会役員は人前に立つことが多いので人前に立つことが苦手だった私には厳しい役割もありましたが、やっていくうちに慣れていきました。一年生の時の文化祭では先輩やいろいろな人と交流できたのが印象に残っています。

そして三年生になり生徒会長に立候補しました。

私たちにとって最後の文化祭があるので楽しみにしていたのですが、コロナの関係で文化祭がなくなってしまいました。とても残念ですが、このようなコロナの状況では仕方がないと思います。来年もし文化祭が開かれたら遊びに来たいと思います。

桐工定時制ではいろいろなことを学べましたが、四年間学校に通い続け卒業できることと、こうして人前で話せるようになったことが一番の成長だと思います。

そして今まで指導して下さった先生方、何より今まで支えてくれた家族に感謝しています。私たちが今ここにいるのは、いろいろな人たちの支えがあったからです。この思いを忘れず、これから新しい道へ歩いていきたいと思います。

結びに、桐生工業高等学校がますます繁栄することをお祈りして答辞といたします。

令和三年三月一日

群馬県立桐生工業高等学校

定時制工業技術科 卒業生代表 森田 彩斗